

声 明

ロシアのウクライナ侵攻に断固抗議する

京都社会保障推進協議会
議 長 渡邊 賢治

2月24日のロシア軍によるウクライナ侵攻で、軍人だけでなく、多くのこどもや民間人の方々が亡くなったと報道されています。

ロシアによるウクライナ侵攻は、独立国家の主権と領土に対する明白な侵略であり、国連憲章と国際法を踏みにじる暴挙です。プーチン大統領は、即時に攻撃の停止・撤退をすべきです。今この瞬間にも、ウクライナの人たちのいのちが奪われています。ロシア軍による軍事行動に合わせて、サイバー攻撃や、フェイクニュースが流されているとも聞きます。世界を混乱させているプーチン大統領に、強く強く、戦争を中止せよと要求します。

こうしたなかで、日本でも、世界の多くの国でも、「戦争は止めろ」「侵略戦争は止めろ」「ただちに軍事行動を止めよ」の声が高まり、デモや集会、SNSによる反対の声が広がっています。世界各国の外交努力や経済制裁などが行われていますが、あわせて、プーチン政権の暴挙を止めるには世論を大きく広げることです。私たち一人ひとりの「戦争反対」「ウクライナ攻撃を直ちに止めよ」の声が、日本と8,000キロ離れたウクライナの人たちを救うことになります。声を上げましょう。

プーチン大統領は、侵略戦争開始の際に、「ロシアは世界で最も強力な核保有国の一つだ」「我が国が攻撃すれば、壊滅し悲惨な結果になることは疑いない」など、核兵器による威嚇を行っています。核兵器は、大量破壊と非人道的な結果をもたらす最悪の兵器です。2021年1月に核兵器禁止条約が発効し、世界の人々は核兵器廃絶に向けて取り組みを進めています。プーチン大統領の発言は、これに逆行する行為です。さらに、こともあろうに安倍元首相が、「日本での核兵器の保有などについての議論をしていくことをタブー視してはならない」など、日本の核軍備を検討する必要があるかのような、唯一の被爆国の元首相と思えない発言をしています。「力には力」というような旧態依然の思考こそ、日本と世界を危うくする思想です。

20世紀の戦争の世紀を越えて、人類は戦争を起こさない社会を創るために努力を重ねてきています。その努力を否定したプーチン政権の軍事侵攻は、人類の進歩にたいする挑戦です。平和を求める大きな声を、戦争反対の声を、日本から、世界から、ウクライナに届けようではありませんか。

以上